
平成 30 年

1 2 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

東濃農林■6次産業化 農産物加工品の開発研修会を開催

東濃農林事務所管内では、多くの農業者が地産地消にこだわった農産物の加工品開発や販売に取り組んでおり、現在では地域の直売所などで定着している特産品も多くなっている。

そこで、農業普及課では、今後の加工品づくりを後押しすることを目的として、12月4日、6次産業化プランナーを講師に招き、「あなたにも実践できる売れる商品作りのコツ」と題した研修会を開催した。研修会には加工品開発に関心のある農業者や関係機関などの21名が参加した。

講師からは、栄養士・調理師でもある自身の視点から、売れる商品づくりのヒントや、広報・販売戦略について実例を紹介しながら解説や提案があった。講演後、熱心に質疑が行われ、出席者の関心の高さが伺われた。

こうした研修会を機に、地域内での新たな加工品開発の動きにつながることを期待される。



【熱心に聴講する参加者】

多様な担い手づくり

西濃農林■新規就農者の確保 管内農業の現地巡回学習会（大垣養老高校）

12月7日、西南濃農業普及事業推進協議会（事務局：農業普及課）は、将来の地域農業の担い手確保・育成を目的に、県立大垣養老高等学校1、2年生の希望者41名を対象とした現地学習会を開催した。視察先は、管内の先進的な農業経営体の(有)ブロメリア・ギフ（花き）、(有)福江営農（土地利用型作物）、(株)安立ファーム（肉用牛）、(有)とり沢（6次産業化）、(株)西濃パイロット（土地利用型作物、ブロッコリー他）及び岐阜県就農支援センター（トマト）の6か所で行った。参加した生徒たちは、管内のトップレベルの農業経営に関する説明に関心を持って聞き入り、多くの質問も出て、将来の担い手の確保に期待の持てる学習会となった。新規就農の有様が多様化する中、農業を職業の一つとして検討するよい機会となった。



【視察の様子】

揖斐農林■アスパラガス アスパラガス帰農塾、修了

揖斐アスパラガス部会、JAいび川、農業普及課で協力して今年の5月から行ってきたアスパラガス帰農塾が、12月15日の第4回の講座を以て、視察研修を含む全5回の課程が全て修了した。

第4回の講座では、冬期管理の具体的な方法やアスパラガスの病害虫について講義を行った後、冬季管理の最初の作業となる刈取り、土壌表面焼却の実習を行った。また講義に合わせ修了式を開催し、部長から塾生への修了証の授与と、講座の内容や作付意向についてのアンケートを行った。アンケートの結果、講座の内容には比較的満足度は高く、作付意向についても、4戸がすでに栽培を行っている、もしくは今後栽培したいとの回答であった参加者へは、冬期研修会への勧誘を行った。

今後は部会活動を通じて作付への誘導や栽培支援を行い、揖斐地域のアスパラガス産地の拡大を図っていく。



【表面焼却（病害虫防除）】

売れるブランドづくり

岐阜農林■いちご JAぎふいちご産地連絡協議会発足

12月5日、管内のいちご産地代表者及び関係機関が参集し、JAぎふいちご産地連絡協議会が発足した。

当協議会は、管内のいちご産地が連携し、産地強化と経営の安定化を図ることを目的とし、6つのいちご生産組織（岐阜市、本巣地域、羽島市、各務原市、佐波地区、伊自良地区）の代表者、関係機関（JAぎふ、JA全農岐阜、岐阜農林事務所）から構成されている。

今後、当協議会では、産地全体に係わる課題（パッキングセンターの運用、新規就農者の確保・定着等）が検討されることとなり、農業普及課でも、積極的に活動を支援していく予定である。



【発足会議の様子】

中濃農林■きゅうり 平成30年度飛騨美濃特産名人に認定

12月26日に、岐阜県庁で平成30年度飛騨美濃特産名人認定証授与式が開催され、関市の藤井讓司氏がきゅうり名人として認定された。

藤井氏は、冬春きゅうりの施設栽培を行っており、地域に先立って環境制御装置を導入するなど新技術を積極的に取り入れて収量を向上させてきた。また、指導農業士として地域の若い担い手の育成にも熱心に取り組んでいる。

授与式では、知事から今回認定された7名の名人に対し「今後も名人として研鑽し、地域農業の牽引役としてご尽力いただきたい」と激励の言葉がかけられた。



【知事から認定証を授与】

飛騨農林■果樹 「飛騨のくだもの」の新たな産地戦略 ～飛騨地域産地協議会の設立総会～

将来にわたって「飛騨のくだもの」のブランドを維持するための新たな産地戦略を展開することを目的に、12月19日(水)に飛騨地域産地協議会の設立総会を開催した。

本協議会は、生産者、JA、市、県で構成され、各機関が連携して「10年後の目指すべき産地の姿」に向けた、様々な取組みを実施する際に、中心となる組織である。

設立総会の実施に当たり、産地改革の根幹となる「飛騨地域果樹産地構造改革計画」について生産者の代表者らと産地の実情に応じた取組みを協議し、設立総会当日に承認された。

新たな産地戦略の着実な実行には、産地が一体となって取組みを展開する必要があることから、今後、農業普及課では、産地協議会構成員と連携を図りながら、ブランドの維持・発展に向けた活動を支援していく。



【会議の様子】

革新支援センター■農業高校 **GAP取得チャレンジシステムの現地確認受験・認定**

12月26日、飛騨高山高校は、GAP取得チャレンジシステム（畜産GAP）の取組確認済み農場として、審査・認定機関である（公社）中央畜産会に認定された。

GAP取得チャレンジシステムはJGAP取得の準備段階として位置づけられており、生産者自身が生産工程管理を点検し、それを（公社）中央畜産会が確認するものである。

飛騨高山高等学校では、課題研究としてJGAP（家畜・畜産物）に以前から取り組んでおり、今回はその一環として、高校生自らがWeb上で（公社）中央畜産会に確認申請し、12月17日に、同校生物生産科3年生が（公社）中央畜産会の現地確認を受験した。

畜産・学校関係者らが見守る中、審査員の質問に対し、高校生自らがこれまでに準備した文書・帳票に基づき説明を行った。農場管理の確認では、資材置場、作業マニュアルや危険箇所の見える化の実践について審査員から高く評価された。

今後は、農業経営課の農業革新支援専門員がJGAP指導員として畜産GAPの普及を図っていく。



【高校生が畜産GAP現地確認受験】

住みよい農村づくり

郡上農林■普及活動成果発表 郡上市農業振興大会にてGAPの推進に向けた普及活動を発表

12月1日、郡上市美並町の日本まん真ん中センターにおいて2018郡上市農業振興大会が開催され、郡上市内の農業者や関係機関職員等350名が参集した。農業普及課は、農業振興事例発表において「GAP推進による農業経営改善と信頼向上」と題し、GAP認証に向けた支援活動について報告をした。

この中で、GAPの取組みは無駄の解消、安全性の確保や作業者の資質向上に繋がり、経営改善に役立つこと、GAP認証の取得は対外的な信頼性向上に結び付くことを説明し、郡上市内においても、GLOBALG.A.P.や岐阜県GAP確認制度の認証を受ける農業法人や個別農家が出てきたことを発表した。

農業普及課では今回の発表を通じて、農業者のGAPに対する理解が深まり、GAP認証者が増える事を期待している。



【成果発表の様子】

可茂農林■大寺営農組合 法人合併にかかる臨時総会

白川町佐見地区では、3つの農事組合法人が平成31年2月の合併を目指し協議を行っている。3法人それぞれで臨時総会を開催し、12月8日に合併契約承認の決議を行った。

農業普及課は、存続法人となる大寺営農組合の臨時総会に出席し、合併契約承認及び定款の変更、理事・監事選任についての特別決議の状況を確認した。結果、すべての議事は承認された。

被合併法人となる他2法人も、大寺営農組合との合併について承認され、2月中旬に変更登記を行い、新法人「農事組合法人ファーム佐見」が設立される見込みである。

農業普及課では、引き続き新法人設立の支援を行うとともに、経営安定に向けた支援についても行っていく。



【臨時総会の様子】

恵那農林■指導農業士 農業大学校で出前講座を開催

指導農業士東濃ブロック連絡協議会は、12月6日に岐阜県農業大学校において出前講座を開催した。本講座は平成28年から開催されており今年で3回目を迎え、本年は1学年の26名を対象に、園芸と畜産グループに分かれて意見交換を行った。

今回は5名の指導農業士と農業大学校を卒業した1名の若手就農者が講師として参加し、経験に裏打ちされた体験談と熱いメッセージを語っていただいた。学生の多くは、実際に農業を職業としているプロからの話を聞く機会が少ないことから、出前講座終了後も会場に残って熱心に質問する学生もおり、就農へのイメージを具体化することができたようであった。農業普及課では、引き続き農業大学校生徒と指導農業士の交流会の開催を支援し、就農意欲の喚起をすすめていく。



【思いを語る指導農業士】

下呂農林■女性農業経営アドバイザー 下呂市女性農業者交流会を開催

12月12日、下呂市内の女性農業経営アドバイザーが中心となって、「下呂市女性農業者交流会」を開催した。

初めて顔を合わせる方も多く、自己紹介に始まり、お互いに抱えている課題や悩みを語り合う気楽な交流会となった。また、当日は、農業経営課、農林事務所、市、JAも出席し、県内外で活躍する女性農業者の情報提供を行うなど交流に加わった。

農業普及課では、事前に管内女性農業者調べや交流会の企画・運営を行ったが、交流会で話題となった6次産業化の取り組みなども含め、今後も地域での女性農業者の支援に取り組む。



【農業で活躍する女性が
集まり意見交換】